

少女たちの想いは、どうフォローされるのだろうか

先日ネット上で、ある県の地方紙の公立児童自立支援施設（旧教護施設）入所中の少女たちの「きょうにも逮捕」の記事を目にした。

記事の概要は、少女たちが最近2回、女性職員たちに暴行を加え、けがをさせたことから逮捕のよう。

少女たちが態度を硬化させた背景に、慕っていた4年近く勤務した20代の女性職員（非常勤）の退職があり、それに対する不満が他職員たちへの暴行につながった可能性があり、施設長も信頼していた職員の退職が「集団暴行に至った要因の一つ」と認めているとか。また、この施設では、数年前にも少年たちによる事件もあったとか。

この記事を目にし、ウ～ン、と考え込んでしまった。

少女たちは、日頃、心の居場所がなかった故に非行に走り、児童自立支援施設に措置入所したはず。

その施設で心を開ける職員に出会えたと思ったのに、その職員は居なくなる。

逆に言えば、この退職した職員以外に、自分達の心を開ける職員がいなくなる施設の体質への不安が、集団暴行への背景とも読み取れる。

今回の事件で逮捕され、恐らく少年院等への措置替えということになり、世間的には「一件落着」ということになるのだろうが、少女たち一人一人の心の居場所への想いは、どうフォローされるのだろうか。

一方、次のようなことも推測でき、切なくなる。

報道によれば、退職理由は「私事都合」とのことではあるが、本当の理由は知る由もないが、どこの施設でも入所児・者に慕われる職員が、しばしば他の職員から「出る杭は打たれる」とか、「足を引っ張られる」とかで苦悩し、転職、退職する若い人のことを多く見聞しているだけに、この報道記事にもついそれを推測してしまう。

だからこそ、少女たちはそうした周りの雰囲気を感じ取った故の今回の事件かなとも推測してしまう。

どんな施設の子どもたちでも、その職員が正職か非常勤職か、また、どんな職種か役職かは関係なく、要は心開ける人を求めている。

自分も多く経験してきたが、新しく来た若い職員がどういった感性、考え方の人かは、その人と話さなくても、1、2週間もあれば、子どものその人への接近行動の様子を見て理解できたものである。

係わり合い、コミュニケーションの深まりとは、そうした基盤の上に成り立つものだと思うだけに、今回の報道から、ついあれこれ推測して考え込んでしまった。

（2006年10月16日 記）